

令和5年度スマート農業技術実演会（露地野菜）を開催しました

令和5年10月5日に坂東地域農業改良普及センター主催でスマート農業技術実演会を開催し、生産者30名及び関係機関13名の合計43名が参加しました。スマート農業とはロボット技術やAI等の先端技術を活用する農業のことで、最新テクノロジーを利用した作業の効率化や安定生産の実現が期待されています。

実演会ではまず、農研機構から開発中のキャベツ収穫予測システムについて説明が行われました。

収穫予測システムは気象情報・生育状況などのデータに基づいて収穫日を自動的に予測する技術であり、収穫予測情報が「見える化」されることで労働力分配や作業機械配置の効率化が可能になるとのことでした。

次に、株式会社NTT e-Drone Technologyよりドローンによる農薬散布の実演が行われました。実際に20aのキャベツほ場でデモ飛行を行いました。作業時間の大幅な短縮、均一で撒きムラのない散布ができている様子でした。

最後に、実演会場の生産者から、栽培品目によっては技術の導入が難しいものもあると思うが、今後のスマート農業技術のさらなる向上を期待しているとお話をいただきました。

また、参加した生産者は、一同感心した様子で新技術の仕組みについての質問やドローンの撮影を行うなど、有意義な実演会となりました。

普及センターでは、今後も作業効率化・安定生産を目指したスマート農業技術の導入を支援していきます。



実演会の様子

令和5年10月18日 坂東地域農業改良普及センター バティン（成長産業）